

論文 / 著書情報
Article / Book Information

| | |
|-------------------|---|
| 題目(和文) | 現代建築作品における空間の大きさの比較表現 |
| Title(English) | THE SCALAR RHETORIC OF SPATIAL DIMENSIONING IN CONTEMPORARY ARCHITECTURE |
| 著者(和文) | 長谷川豪 |
| Author(English) | Go Hasegawa |
| 出典(和文) | 学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9792号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:塚本 由晴,藤岡 洋保,安田 幸一,奥山 信一,村田 涼 |
| Citation(English) | Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9792号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,, |
| 学位種別(和文) | 博士論文 |
| Category(English) | Doctoral Thesis |
| 種別(和文) | 論文要旨 |
| Type(English) | Summary |

論文要旨

THESIS SUMMARY

| | | | |
|-------------------------|-------|----|---|
| 専攻： Department of | 建築学 | 専攻 | 申請学位 (専攻分野)： 博士 (工学) |
| 学生氏名： Student's Name | 長谷川 豪 | | 指導教員 (主)： Academic Advisor(main) 塚本 由晴 |
| | | | 指導教員 (副)： Academic Advisor(sub) |

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は「現代建築作品における空間の大きさの比較表現」と題し、以下の6章によって構成される。

第1章「序論」では、研究の背景、意義と目的、研究の資料と方法、従来の研究との比較、および論文の構成について述べている。本章ではまず、一つの建築のなかで大きさの比較を通して部分同士が関係づけられる自己参照的な尺度の表現を「空間の大きさの比較表現」と呼び、それが階、室、部位といった建築の構成単位ごとに見出されることを指摘したうえで、そうした表現を用いた現代建築作品を国内外の建築専門誌から資料として収集し、空間の大きさを比較する尺度の組み合わせから構成類型を導くことを通して、現代建築における「空間の大きさの比較表現」がどのように成立しているかを明らかにするという研究の方法と目的について述べた。

第2章「階の構成による空間の大きさの比較表現」では、複数の階をもつ住宅作品を事例として、各階の天井高と平面の大きさの違いによる「階構成」を整理したうえで、これとエントランスの位置、下階と地面の関係、上階と屋根・空の関係を重ねて検討し構成類型を導くことを通して、空との隣接性の強調、地面との隣接性の強調、空と地面との隣接性を上下階で別々に利用、空と地面の両方との隣接性の強調、さらに空と地面の対比の非分節、といった地面と空の対比関係を軸にした階の構成による「空間の大きさの比較表現」の形式を明らかにした。

第3章「室の配列による空間の大きさの比較表現」では、室の配列に「空間の大きさの比較表現」が見られる建築作品を事例として、室の種類と配列を定義し、室の配列による空間の大きさを比較する尺度としての幅、奥行き、高さが、差異を表現する「パラメータ」と同一性を表現する「コンスタント」のどちらにもなり得ること、またそれらの組み合わせによる空間の大きさの比較方法には「直接比較」と「間接比較」の2つがあることを指摘したうえで、これらが生じさせる室のまとめ方における階層の検討から構成類型を導くことを通して、単一の空間の大きさの比較方法、同一の空間の大きさの比較方法の反復、異なる空間の大きさの比較方法の階層化、異なる空間の大きさの比較方法の並置、といった室の配列による「空間の大きさの比較表現」の形式を明らかにした。

第4章「部位の配列による空間の大きさの比較表現」では、部位の配列に「空間の大きさの比較表現」が見られる建築作品を事例として、床、壁、屋根、天井といった建築部位とその配列を定義し、部位の配列によって空間の大きさを幅、奥行き、高さ、勾配といった尺度を介して変化させる建築では、位置の基準になる部位と空間の大きさを比較する部位に役割が分配されることで平面図や断面図にグラフのような性格が表れることを指摘したうえで、これらグラフのパタンの組み合わせから構成類型を導くことを通して、部位の配列を単一の尺度で組織、部位の配列を2つから4つの尺度の連動のなかに組織、さらに部位の配列による尺度の連動を部分としての空間単位に重ねた反復、といった部位の配列による「空間の大きさの比較表現」の形式を明らかにした。

第5章「構成単位の違いから見た空間の大きさの比較表現」では第2章から第4章の検討をもとに、「空間の大きさの比較表現」の構成単位による特徴を比較し、階の構成は<対比>、室の配列は<階層>、部位の配列は<尺度の連動>といった秩序を、どのように利用するかという様々な表現と、それらを利用しない表現を共に位置づけることによって、「空間の大きさの比較表現」が現代建築に多様性や複雑さをもたらす批評的な体系を明らかにした。

第6章「結論」では、各章で得られた結果をまとめ、本論文で得られた知見を総括した。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

| | | | | | |
|-------------------------|-------|----|--|-----------------|------|
| 専攻： Department of | 建築学 | 専攻 | 申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested | 博士 Doctor of | （工学） |
| 学生氏名： Student's Name | 長谷川 豪 | | 指導教員（主）： Academic Advisor(main) | 塚本 由晴 | |
| | | | 指導教員（副）： Academic Advisor(sub) | | |

要旨（英文 300 語程度）

Thesis Summary (approx.300 English Words)

‘The Scalar Rhetoric of Spatial Dimensioning’ is a self-referential scalar expression of comparing the dimension of elements in a single architecture. The aim of this thesis is to clarify the scalar rhetoric of spatial dimensioning in contemporary architectural works, through the extraction of various typologies. The scalar rhetoric of spatial dimensioning by composition of stories, arrangement of rooms, and by arrangement of building elements, set the tree categories for analysis.

First, typology of the scalar rhetoric of spatial dimensioning by composition of stories is extracted through the examination of the ceiling height and flat dimension of each floor, position of the entrance, relation of lower floor and ground, and relation of top floor and roof. A form is then clarified in the scalar rhetoric of spatial dimensioning by a composition of stories in relation with the vertical axis by the contrast between ground and sky.

Second, typology of the scalar rhetoric of spatial dimensioning by arrangement of rooms is extracted through the examination of the hierarchy, through a twofold comparison of spatial dimensioning, ‘direct comparison’ and ‘indirect comparison’. A form is then clarified by the scalar rhetoric of spatial dimensioning by arrangement of rooms.

Third, typology of the scalar rhetoric of spatial dimensioning by arrangement of building elements is extracted through graphing the pattern of elements in plan and section of contemporary architectural works. A form is then clarified by the scalar rhetoric of spatial dimensioning by arrangement of building elements.

Furthermore, ‘The Scalar Rhetoric of Spatial Dimensioning’ is revealed through the use and disuse of the following order: <contrast> in composition of stories, <hierarchy> in arrangement of rooms, and <working together between scales> in arrangement of building elements.

In conclusion, the above defines a certain structure to the diversity and complexity in contemporary architecture.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).